OR徒然草

統計数理研究所　鈴木　義一郎

急がば廻るな

世のエリートたるには国立出でなくっちゃ，そのためにはまず一流の私立幼稚園へ．廻り道することも許されず育ったエリートが，一体どんな人間になることやら．

最適解の候補がたくさんあって，一つずつシラミツブシ方式でやってたら日が暮れてしまう．前に検討した解が改良されるよう，しかも最短コースで最適解へ到達するよう考案されたものが，LPでいうところのシムプレックス法．ところで当該問題の

“条件式を規定している係数をどう定めるか”

についてのヒントは，どの本をみても書いてない．

論より実践

“理論家の頭をタタイテみれば，スッキリ・スッキリと音がする”．理論製造元の多くにはびこる性癖の代表的なものに，このスッキリ好みがあげられる．だが，不必要にすっきりしすぎるのも考えもの．だって，実際問題のほうは，結構“紛れ”の多いケースがざらだから．

理論を実際に利用してくれる人は理論家にとって顧客，買い手のつかない理論は，所詮売りものにはならない．“配給”思想から脱却できてない国鉄は，“配売”できなかったグリーン料金を値下げした．かかる事実を他山の石となし，重重反省すべきではなかろうか．

外れてもともと

必ず当たる情報をもってたら，誰が皆に知らせたりするか．こう競馬新聞発行側に弁解されると，反論の余地がまったくない．当たって当然外れたら文句の電話が殺到する天気予報担当者は，こうはいかない．

不確定事象の未来を予想する，これに当たり外れのでるのは当然．だから，予想の良否は的中率の大小でなければならない．競馬は予想が当たったときだけ印象に残り，天気予報の場合は外れたときのほうが記憶されやすい．人情としては当たりにくい事象ほど予想したくなるもの，当然外れるときのほうが多いのは致し方ない．

贋物を探せ

“ホンモノは誰だ”というテレビ番組がある．本物の他に，本物らしく振舞えるよう訓練を受けた贋物が混じっている．回答者は，いろんな質問をして本物を探しだすというショー番組で，なかなか当たらない．

われわれは，ある現象を認識しようとして“データ”を採る．どんな現象も，詳細に記述してたら際限がない．そこで観点を絞って，より単純化された現象とすり替える．つまり，実際現象の贋物を考えてやる．気取って表現すれば“モデル”である．そっくりのモデルが作れれば文句ないが，扱いにくくなるほど複雑でも失格する．

本音と建前

以前国会で，“前向きに善処したい”という答弁がはやった．善処するというのなら，前向きに決まっている．しかも“したい”という願望にすぎない．こんなフザケタ表現なら，どんな調子のよいことだって答弁できる．自分にとって都合の悪いことは「記憶に定かではありません」といった答弁のほうが，本音がみえてまだしも愛嬌がある．

偏狭なセクト主義とおざなりなデータ解析では，建前調の報告書の氾濫するのも無理はない．いかにして本音をあばくか，これが“OR的アプローチ”の真髄とみる．

偏すれば窮す

世に数学嫌いはたくさんいる．無味乾燥で，厄介な計算ばかりさせられたら，嫌いになるほうが当然．当人の喰わず嫌い的な性向も多少災いしているが，元凶は「指南番」にある．先生の中で，最も常識に欠けているのが数学の教師である，といった話も聞いた．数学が論理的すぎるあまり，矛盾だらけの世の中を見る眼が甘くなる．偏屈者を貴しとする風潮が，数学家仲間に残存している．

偏った考えの持主にデータ解析を委ねれば，公正な結論は期待できない．尤も公正無比なデータ解析をと意気込んでも，これまたピンボケの結論しか得られまい．

虎の威を借る

“この結果は，厖大なデータを大型計算機で導出”といった表現の，「大型計算機で」の部分が曲者．確かに大型計算機は，大量の計算を瞬時に処理し，データ解析には無くてはならない．その計算機も，正しいデータが，正しく処理されたときにしか威力を発揮できない．

「計算機で」と同様，否それ以上魔力を発揮しそうなのが，「理論的」という形容句．理論という言葉を見ただけで吐き気を催す御仁が多いだけに，効き目は抜群．一般に，つけずもがなの形容句を附した報告事例に限って，詳細に検討すればいろいろとボロが出る．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．